

令和6年度のカサゴ稚魚放流！

令和6年9月11日（水）に都漁連内湾釣漁協議会の御協力をいただき、羽田空港D滑走路北側のスリット護岸周辺水域において、カサゴ稚魚2万尾を放流しました（図1、図2）。今年の稚魚は、平均全長7.8cm（平均体重8.0g）で、放流後は海底に向かって元気に泳いでいきました。

当協会では協会自主事業として、平成7年度からD滑走路北側のスリット護岸周辺で、カサゴ放流事業を開始し、これまでの累計放流尾数は54.5万尾となっています。

カサゴは定着性が強く大きな移動をしないため、放流後もこの海域に留まり成長していくことが期待されます。実際、当協会による漁獲調査では、羽田空港D滑走路周辺で様々なサイズのカサゴが採捕されるようになっており、放流魚の一部は親になって再生産しているものと思われます（図3）。

当協会では、今後も豊かな東京内湾を目指して放流事業を継続していきます。



図1 カサゴの積込作業（都漁連内湾釣漁協議会の協力をいただきました）



図2 D滑走路護岸周辺で放流

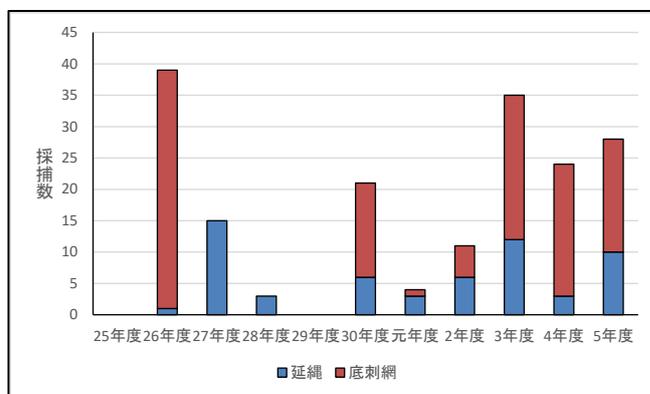


図3 D滑走路周辺の調査で採捕されたカサゴ採捕数の推移